

ハウセンカの機嫌

大館中学校 二年 小林 愛琉

「今年は、みんなでハウセンカを育てましよう。」

小学校三年生のとき、理科の授業で先生がこう言いました。「ホーセンカって、なに？」そう思っていると、先生が写真を見せてくれました。赤や紫などの、丸くてふわっとした花がたくさん咲いています。一年生で育てたアサガオとは違う、見たことのないかわいい花でした。

「めっちゃきれいじゃん！」

先生が、小さなハウセンカの種をみんなの手のひらに三粒ずつ乗せてくれて、みんながそれを植えました。私は、「早くきれいな花を咲かせたいなあ。」と思いながら、そっと土をかぶせました。

夏が近づいてくると、そのうちの一粒の種から小さな芽が出てきました。初めは子葉だけでしたが、毎日欠かさずに水やりをしていると、気付けば背丈が伸び、大きくなっていて、みずみずしい緑色の葉もたくさん生えていました。「毎日水やりをしてきてよかったな。」と嬉しくなったのを今でも覚えていま

す。夏休みになってハウセンカを家に持ち帰ってから、毎日大切に育てました。朝、水やりをし、葉の状態を観察したり、いも虫を追い払ったりして、とにかく早くきれいな花を咲かせられるように頑張りました。

ある日、いつものように水やりをしようとする、葉や茎とは違う、チューリップのつぼみのような形をしたものが出ていることに気が付きました。数日経つと、そのつぼみが膨らんできて、翌日には真っ赤できれいな花が咲きました。「やった！咲いた！」当時四歳だった妹にそのことを知らせると、「私もはやく三年生になりたいなあ。」と言いがら、私以上に喜んでいました。

あれから五年が経ち、今年はいよいよ妹がハウセンカを育てる番です。妹は学校で種を植えた日、とても張り切って帰ってきました。毎日の水やりを欠かさず、子葉が生えてきたときは「今日ね、ハウセンカが子葉っていう葉を出したんだよ！」と私に報告してくれました。それから数日後には、「葉が増えた！背も伸びた！」と言いながら、花が咲くのをとても楽しみにしている様子でした。待ち遠しすぎて、一日に何度も水をやり、台風がくると玄関の中にハウセンカを避

難させたりなど、毎日頑張って大切に育てていました。

ところが、妹のハウセンカはいくら待ってもつぼみがつくどころか、葉ばかりが元気で。妹の友達のハウセンカはきれいに花を咲かせています。

ある日、夕食を食べながら、家族でハウセンカの話になりました。「これ、本当にハウセンカの種だったの？どうしたら咲くのかなあ。」と、妹はすごく心配そうでした。母は、「もう少しちゃんと世話したら？」と言い、父は、「愛琉のときはちゃんと咲いたのにねえ。」と言いました。妹は少し焦ったようにつぶやきました。「これじゃ、観察日記書けないじゃん。どうしよう……。」

そこで私は、花が咲かない理由をインターネットで調べてみることにしました。乾燥に弱いハウセンカの開花条件として、水やりは欠かせません。また、適度に日光を浴びせることも必要です。しかし、ハウセンカの特徴として、水やりをしすぎると花が咲かないことと、暑さには強いけれど、日光に当てすぎると弱ってしまうこともある、ということが分かりました。思い返してみると、妹は張り

切って一日に何度も水やりをしていたし、常に日光がよく当たる場所に置いていました。

また、偶然ではありますが、ホウセンカの花言葉のひとつに、「わたしに触れないで」というものがあることも分かりました。これは、ホウセンカの実が熟すと、少し触っただけで種が弾け飛ぶことに由来しています。しかし、それとは別に、妹のやたらと構いすぎる育て方と花言葉を合わせて考えてみると、「わたしに触れないで」は、妹のホウセンカにぴったりのです。きっと、妹のホウセンカは「余計なお世話！」と機嫌を損ねてしまつて、花を咲かせなかったのかもしれない。そう考えるとおもしろいなと思いました。

植物を育てる過程にはいろいろと大変なこともあるけれど、きれいな花を咲かせたときにはそれ以上の喜びがあります。また、家族の会話のきっかけになったり、生活に潤いをもたらしてくれたるすことに気が付きました。

今回のことで、花を育てることの楽しさをあらためて実感することができました。今後どこかで私のお気に入りの植物と出会ったら、その栽培方法を勉強し、大事に育てていくことに挑戦したいと思っています。

今、妹のホウセンカは、家の玄関先できれいに赤い花を咲かせています。